

2024年度 私立大学入試

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 坂本 新一

1 私立大学入試の傾向と対策

2025年度、歴史総合・世界史探究としての初めての入試が行われる。しかし、これまでの特徴的な出題傾向として、「世界史の中の日本」「ジェンダー」「グローバル化」「現代社会の諸問題」といったテーマがあげられ、また、「時間軸・空間軸」をふまえて、「史料・図版・グラフなど」を用いて出題する形式が増えている。その中には、歴史総合・世界史探究の先駆となりうる出題も含まれる。

2 植民地主義と大衆に関する問題

本稿では、図版を扱った入試問題を2題取りあげる。まずは、広告として用いられた図版を通じて、植民地主義の欺瞞を扱っている問題である。広告・宣伝は、歴史総合において重要な視座の一つである大衆とも関連するテーマであることから注目したい。

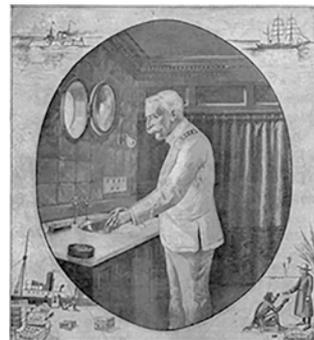
ここでは、図版と宣伝文句が解答のヒントとなって

■例題1 2024年度 立教大学：2月12日 [1]

弱体化したアフリカは、19世紀から20世紀にかけてヨーロッパ諸国による植民地支配の対象になった。その際にヨーロッパ諸国が採用した統治の手法はアフリカの各地に大きな影響を及ぼした。第一に民族の「創出」である。河川流域を中心に数多くの国家が発達していたアフリカは、ヨーロッパ諸国によって大きく再編され、そこで新たに創出された民族を単位に20世紀に国民国家へと細分化された。第二に、宗主国が住民の一部を支配の代理人にし、かれら代理人に特権と引き替えに主権を譲渡させたことで、住民の大部分はアフリカ各国の政治に参加できなくなった。住民間の分断である。第三に、この植民地化がしばしば¹⁶⁾文明化の論理をまとうたことで、住民間の分断は複雑になった。ヨーロッパ人の手助けで権力を得たアフリカ人「首長」とその協力者たちは、自らを文明の担い手と位置づけ、それ以外のアフリカ人批判者たちを野蛮な人びとと見なした。こうした分断・対立のもとで人びとの協働は容易でなかった。1960年代の独立の時代を経て現在もっとも成長が期待される地域となったアフリカは、いまもこうした困難から自由ではない。

(※当該問題以外に関わる下線、問題は省略)

16. これに関連して、1899年にイギリスの石鹸会社ピアーズは、以下の図像と文面からなる広告を出した。



白人の（イ）のための第一歩は、清潔さの道徳的美点を教えていくことにある。ピアーズ石鹸は、世界諸国の教養ある人びとのなかでもっとも愛顧されているだけでなく、文明の進展とともに世界の（ロ）していく強力なものである。実にそれは理想的な手洗い石鹸なのである。（原文は英語）

当時のヨーロッパ世界の文明観をうかがわせるこの広告で、この企業は自社商品の販売をいかなる論理で正当化したのか。広告図を見て、広告文面にもうけた空欄（イ）・（ロ）にあてはまる語句としてもっとも適切な組み合わせを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

- | | （イ） | （ロ） |
|----|------------|-----------|
| a. | 経済的繁栄を達成する | 貧しき隅々を工業化 |
| b. | 健康を増進していく | 豊かな隅々を獲得 |
| c. | 責務を果たしていく | 暗き隅々を啓蒙 |
| d. | 領土を最大化する | 危険な隅々を制圧 |

正解：c

いる。図版中で扱われているアフリカ人、宣伝文句中の「清潔さの道徳的美点」「世界諸国の教養ある人びと」「文明の進展」といった表現に注目しつつ、帝国主義の時代にヨーロッパ列強が一方的に「暗黒大陸」とみなしたアフリカを啓蒙することを白人の責務とする考え方が広まったという歴史的理解をふまえて解答を選ぶことになる。また、問題文では単に帝国主義期を扱うだけでなく、1960年代の独立後もアフリカが困難を抱えていることへの指摘がある。こうしたポストコロニアルの視点は、以後も出題されるであろう。

『最新世界史図説 タペストリー二十二訂版』（以下、『タ

ペストリー』)のp.217や、『明解 歴史総合』(以下、『歴史総合』)p.54には、図版として「文明化の使命」を語る新聞のさし絵が示されている。その上で『タペストリー』では、ヨーロッパ人には、文明的に劣ると一方的にみなしたアジア人やアフリカ人を文明化する使命があると主張し、植民地支配による経済開発が現地住民の生活を向上させるという主張が広く支持されていたこと、そのことが植民地支配を正当化する論理となったことの指摘がある。

また、世界史探究を学ぶ土台となる『歴史総合』p.54には、「未来へ活かす歴史 植民地支配と人種主義」という形でコラムがあるほか、『明解歴史総合図説 シンフォニア』p.78では、「平等・格差の観点から振り返ろう」という課題が与えられ、「フランスの政治は、最終的に人権宣言を尊重する(共和・絶対王)政となったが、文明を広めるという理由で植民地の(拡大・自治)を図るなど、政策には人権宣言と矛盾する点もあった。」という演習が設定されている。

このほか、帝国主義と結びついた広告の例として、『新詳世界史探究』(以下、『探究』)p.232では、イギリスで発行された紅茶の広告の図版が扱われている。図版からイギリス人や現地の人々を読み解きつつ、茶の輸送手段としての鉄道についても考察させている。また、『探究』p.256では、植民地主義と人種主義を扱う中で、エルジェ作の『タンタンのコンゴ探検』という漫画を通じて、ヨーロッパ人のアフリカに対する先入観を考えさせつつ、「視点を変えて 植民地研究の諸潮流～収奪論と近代化論」というコラムを通じて、植民地支配をめぐる多様な観点を提示している。こうした学びは、これからいっそう求められることになるだろう。

3 「世界史の中の日本」に関する問題

次に、「世界史の中の日本」という観点を問題文中で扱いつつ、図版を扱った問題である。ただし、単に図版の作者や作品名を問うのではなく、図版と時間軸とを関連させた出題であることから取りあげた。

慶應義塾大学経済学部については、図版問題以外にも注目点がある(例題2)。ここ数年間、大問1の冒頭の問題文が日本史と同一であり、一部の出題内容も重複している。これは、歴史総合を見据えた出題と想定される。問題文で「世界史の中の日本」という視点が組み込まれているのは、このことが大きな理由であろう。

本問は、単に作品の作者や作品名を知っているだけで

■例題2 2024年度 慶應義塾大学：経済学部 [1]

近代建築に多大な影響を与えたル＝コルビュジエは、1887年にスイスで生まれ、のちにパリを拠点に活躍し、1965年にフランスで亡くなった。

2016年、ル＝コルビュジエの17の作品が「ル＝コルビュジエの建築作品——近代建築運動への顕著な貢献——」としてユネスコ世界遺産に登録された。～略～

その17の作品の1つが日本の国立西洋美術館である。同美術館は、d松方幸次郎がヨーロッパで収集した作品の受け入れと展示のための美術館として、ル＝コルビュジエが建築設計を担い、1959年に開館した。

問4 下線部Dの人物について述べた次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

松方幸次郎は1866年1月に鹿児島で生まれた。アメリカで法律を学び、ヨーロッパでも学んだのち、川崎造船所初代社長になった。松方は、日本に西洋美術を広めるため、ヨーロッパでa絵画や彫刻などの美術品の収集を積極的に行った。

① 下線部aに関連して、次のa～cの作品が発表された年代の古い順に左から並べたものとして適当なものを、下の1～6の中から選びなさい。

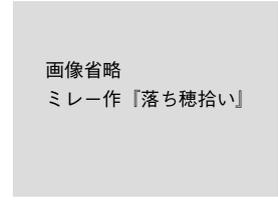
解答は解答欄〔(2)〕に、その番号をマークしなさい。

1. a b c 2. a c b 3. b a c
4. b c a 5. c a b 6. c b a

a



b



c



<出典>

a, c: 写真提供 ユニフォトプレス

正解 : 5

は解答できない。例えばバロックなどの文化的潮流とその時代を学習していることが求められているため、普段から文化史でも丸暗記にならない学習が求められる。『タペストリー』ではp.178にレンブラントの「夜警」、p.191にゴヤの「1808年5月3日マドリッド市民の処刑」が掲載されているほか、「歴史と芸術」に「ナポレオンを嫌悪した芸術家たち」というコラムがあり、その一方でp.190にはナポレオンを賛美したダヴィドの「ナポレオンの戴冠式」も扱われている。ミレーの絵画については、『探究』p.245で「落ち穂拾い」、『タペストリー』p.211で「晩鐘」が掲載されており、あわせて学習すると効果的だろう。